

- ▶ 福井県では、地域協議会の開催や地域林政アドバイザーの派遣等により、市町の支援をしてきたが、経営管理制度を進めるにあたり、森林所有者の探索が進まないなどの実務的課題が解決できないため、進捗が進まない市町が見られた。
- ▶ このため、市町が抱える実務的、実践的課題を解決できるよう、司法書士等の専門家から登記簿の読み方や登記手続き等について学ぶ研修会や個別事案に対する相談会を開催し、円滑に事業が進められるよう支援を行った。

□ 事業内容

市町森林整備推進支援事業

- ・ 市町のニーズに応じた研修会を開催
- ・ 事業の推進にあたり、支障となっている事案を解決するため、県内の司法書士等の専門家による相談会を開催

【事業費】 495千円（うち譲与税495千円）

【実績】 研修回数：2回（10市町、40名が参加）

相談会数：6回（6市町）

□ 取組の背景

- ・ 大部分の市町担当職員は、林業の専門職員ではなく、林業以外の他の業種も兼務するなど、林業に専念できる環境にない。
- ・ 経営管理制度の進捗状況が、県内の市町間で差があり、一様に進んでいない。



（研修会）



（相談会）

□ 工夫・留意した点

- ・ 研修会の開催にあたり、市町からの研修内容の要望調査を行い、講師を選定し、研修内容に反映させた。
- ・ 研修会の後半には、各市町が抱える課題等に対し、専門家からアドバイスを受けるなど、参加者間での情報共有を図った。
- ・ 個別事案にも対応できるよう、対面や電話等での相談もできる体制とした。

□ 取組の効果

- ・ 市町間での情報交換、課題解決に向けた共有ができた。
- ・ 案件に応じ、専門家からの的確なアドバイスを受けることができた。

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：66,590千円	②私有林人工林面積（※1）：85,674ha
③人口（※2）：766,863人	④林業就業者数（※2）：586人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より

- 福井県において、整備されていない森林の多くは、個人が所有する小さな面積の森林であり、管理の担い手が不足している。
- このため、小規模な森林の管理の担い手として自伐林家等が林業に取り組みやすい環境づくりや自立に向けた活動に支援する取組を行った。

□ 事業内容

山の担い手活性化支援事業

- ・ 自伐型林業等団体のスキルアップに必要な研修経費への支援
- ・ 新たに県内の林業関係者のもとで林業活動を始めようとする人への給付
- ・ 集落の山林を活用し木材生産や特用林産物生産を行う取組への支援

【事業費】 5,587千円（うち譲与税5,587千円）

【実績】 自伐団体2団体が安全・技術講習会を開催
移住者1名へ給付金を支給
特用林産物生産者等15団体への支援

□ 取組の背景

- ・ 県内の自伐型林業の取組が活性化（県内5団体）
- ・ 自伐型林業を推進するインフルエンサーが県内で活動中
- ・ 中山間地の山林を活用し薪やきのこの新規生産希望者が増加



（自伐団体）



（県外からの移住者）



（原木しいたけ生産）

□ 取組の効果

- ・ 給付金が後押しとなり、県外から1名が移住した
- ・ 原木きのこ栽培等に新規2名が生産開始
- ・ 漆、がんぴ、研磨炭など伝統文化を支える生産が継続

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：66,590千円	②私有林人工林面積（※1）：85,674ha
③人口（※2）：766,863人	④林業就業者数（※2）：586人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より